

和ステンドあれこれ

Mitsuko Fujita
藤田光子展



「心」～今をありがとう～ (一部)

ガラスに魔法をかける光

光に魔法をかけるガラス

馬場 駿吉

サンドイッチを作る時に切り落としてしまう食パンの耳のように通常は捨てられてしまうガラスの耳だけを使ったステンドグラス、ガラスを全く使用しないステンドグラス、ハンダゴテで描いたステンドグラスをはじめ、金箔、岩絵具、和紙、布などを使ったステンドグラス、不用品をリユースして作ったステンドグラスなど、ステンドグラスの常識を逸脱したステンドグラスのあれこれをご堪能ください。

俳人・名古屋ボストン美術館長 馬場 駿吉

作家在館予定日：初日、最終日、期間中の土曜・日曜(12月30日を除く)、その他リクエスト受付中

日時：2017年12月22日(金)～2018年1月31日(水) 10:00～17:00

休館日 月曜日/祝日/1月1日～3日/12月31日

会場：「登録有形文化財」岡崎信用金庫資料館1階ホール 入館料無料

主催：岡崎信用金庫

詳細は裏面をご覧ください。



■ 藤田 光子 Mitsuko Fujita

硝子アート作家、アトリエ光源主宰

1960年名古屋市生まれ。父は洋画家 藤田 孝屯。幼い頃から人形遊びや屋外での遊びよりも絵を描くことが大好きで、高熱でも絵を描いていたという。

旭丘高校美術科から現役で愛知県立芸術大学日本画科に入学。片岡 球子先生や田淵 俊夫先生から指導を受ける。卒業制作はお買い上げ(首席)と桑原賞のW受賞。その時球子先生から「この子は将来、末恐ろしい絵描きになるよ。」という言葉を戴いたことがずっと励みとなり今日に至っている。

ガラスの透明感と光を受けた美しさに惹かれ、2005年からスタンドグラスと日本画の融合作品制作が始まる。名古屋城、文化のみこ二葉館、ランの館、名古屋港水族館、ミッドランドスクエア、役所などからの展示依頼や個展などで作品を発表してきた。

2009年に制作した「慶光」という金箔を背景に百合を400輪描いた硝子アート作品は、式年遷宮記念神宮美術館の特別展に出展依頼を受け、父 藤田 孝屯と横山 大観氏と同じ部屋に展示された。(特別展「光一歌会始御題によせて」2010.2.17 ~ 3.22 開催) 「和のスタンドグラス」は西洋のスタンドグラスの良さを生かしながら日本文化を取り入れ、光の有無、見る角度、時間帯、展示場所、季節などによって、同じ作品が全く違う表情を見せてくれることが大きな魅力である。



ヨーロッパで教会の窓に色ガラスをはめたのは6世紀。文字の読めない人に神の教えの物語を伝えるためにマリア様キリスト様を描いたスタンドグラスが普及しました。

日本では江戸時代、文字の読めない人のために「般若心経」を絵文字で描いた「絵心経」が各地方で広まりました。

摩訶般若波羅蜜多心経 観自在菩薩

「般若心経」の各文字は絵心経からヒントを得て、現代風にもアレンジし、スタンドグラスはミルフィーユ状の6層構造に、背景を本金箔で制作したものが今回のメイン作品「心」～今をありがとう～ です。

心 = 鉛筆のシン、羅 = ト音記号のラ、時 = 時計のジ、経 = 経本のキョウ、空 = 空間のクウでもあり空でもある、即 = 足のソクまたはソックス、般 = ハンコのハン、波訶 = ワカメ、など、探して、見つけて、解説してお楽しみください。

他にも何かが見つかるかも?! 裏から見ると、表とは全く違う趣の作品となります。



M100号 W1. 668 x H1. 140 x D63



「硝子の掛け軸と行灯」

一番お気に入りのテーマです。床の間が失われつつある昨今、掛け軸という言葉や文化を残したい、掛け軸をもっと身近に楽しんで戴きたいと、和風スタンドグラスにこだわり制作しています。



岡崎信用金庫資料館外観

岡崎信用金庫資料館は、旧岡崎銀行本店として大正6年[西暦1917年]に建てられた建物で、昭和57年より市民ギャラリー、貨幣展示室として地域の文化発展に貢献しています。名建築家鈴木禎次氏が設計した、現存する数少ない建物として、登録有形文化財に選ばれています。当時の重厚感と近代化を感じさせる赤レンガと御影石をふんだんに使った建物です

2階貨幣展示室もご覧ください。



2階貨幣展示室



2階貨幣展示室

岡崎信用金庫資料館

10:00~17:00 [入館は16:30まで] 月曜・祝日休館

入館料無料

〒444-0038 岡崎市伝馬通1丁目58番地

TEL 0564(24)2367 <http://www.okashin.co.jp/>

名鉄名古屋本線東岡崎駅下車 徒歩約10分

名鉄バス籠田公園前下車 徒歩2分

